

2023年12月19日掲載 輸送経済新聞

各社EV導入

第一貨物

山形初、雪道も検証へ

第一貨物(本社・山形市、米田総一郎社長)は11日、小型EV(電気式トラック)の出発式



「新型は航続距離が40%以上延び実用に供すると判断した」と米田社長

を山形支店(山形市)で開催した。三菱ふそうトラック・バス「eキャン

ター」の新型モデル3台を導入し、山形支店、東京支店(東京)、門真支店(大阪府門真市)で1台ずつ運用する。山形県内では初めて。導入した3台はいずれも標準キャブで、バッテリーは電池2個のMサイズ。総重量は6・7ト、最大積載量は2・3ト。航続距離は236キロ。16時間で満充電になる。購入先は太平興業。

米田社長は出発式のあいさつで「当社の集配トラックは1日平均約100キロを走行する。航続距離が100キロ程度の従来モデルでは導入を見送ってきたが、新型モデルは40%以上延びて十分

に実用に供する」と導入の経緯を語った。その後、取材に応じた松田伸三常務は「ディーゼル車に比べ騒音、振動が少なくドライバーの負担も軽減できる。まずは市街地など営業所近郊を中心に航続距離を見なが

ら運用していく」と説明した。日中時間帯に集配で使し、夜間に充電する。山形支店では特に積雪時を含め寒冷地での運用を検証する。導入効果を踏まえ、カーボンニュートラル(炭素中立)に向けさらなる導入拡大を検討していく考え。(矢田 健一郎)